

JA自己改革推進レポート（JA鳥取中央）2月号

1. 第36回 中部農業みらい宣言

JA鳥取中央は1月18日に、定例記者会見「第36回中部農業みらい宣言」を開き、栗原隆政組合長が新年の挨拶とともに、雪害状況や青果物の過去最高販売単価について報告した。今回は、今年ブロッコリーに力を入れ、全自動の製氷機の導入を進めることから、琴浦町にあるブロッコリー選果場で会見を行った。



新年の挨拶では、今年の一文字に「発」を選んだ理由として、コロナの終息を目指し、今年を新たな出発の年にしたいという願いや、更なる発信力の強化、発展を目指したいという意味を込めた。情報発信の具体策として、今年は「中部農業みらい宣言」を大阪で開催、また同時にベジタブルフェアin大阪（仮称）を行うことを発表した。土地柄や生産者の同じ野菜、花とのセット販売戦略をとり、大消費地である大阪で行う予定だ。栗原組合長は「持続可能な社会の実現に向けて大きな力を発揮するのは農業であり、農業振興に向けて核となるJA版シン・地方創生総合戦略の実現を目指し、今後とも農業基盤づくりに精力的な取組を展開していく」と話した。

雪害状況では、年末から元旦にかけての積雪により管内の20戸でハウスや牛舎の倒壊による被害が発生したことを報告。2021年は青果物販売実績については15品種・品目で過去最高単価を更新して終了し、うち10品種、品目は数年連続で高単価を更新したと発表した。

2. 栗原隆政組合長や常勤役員が組合員と意見交換を行いました！

JA鳥取中央は、栗原隆政組合長ら常勤役員が組合員を訪問し、意見交換を行った。組合員がJAに対する意見・要望を直接常勤役員に伝えることで、組織運営基盤の強化や改善に役立て実践することを目的に毎月行っている。



1月5日は、栗原組合長が北栄町で、大栄花き部会部会長の平信誠史さん一家を早朝の出荷作業の合間に訪問した。平信さんは「事業所再編による利用者への影響」や「次世代の生産者の負担に配慮した事業改革」などを要望した。栗原組合長は「更に特産化をすすめることで地域を活性化させ、生産者の所得増大につなげていきたい」と話した。

また、1月12日には、蔵増保則専務が倉吉市

のJA加工所で味噌作りをする、JA女性会大鴨支部を訪問した。女性会会員とともに蒸したお米にこうじ菌を混ぜ、醗酵機に入れるまでの作業を行い、交流を深めた。会員からは「老朽化した加工所の改修」の要望があり、蔵増専務は「加工所は、女性会活動の場として重要な施設」と応え、早急に対応するよう担当職員へ指示した。今後も個別訪問を行い、組合員の視点を形にしていく。



以上